
Chapter 1	1元配置分散分析	1-1
1.1.1	分散分析の概要	1-2
1.1.2	要因と水準	1-4
1.1.3	被験者間要因 (対応のない要因)	1-5
1.1.4	1元配置分散分析	1-5
1.1.5	1元配置分散分析の仮定	1-7
1.1.6	多重比較法	1-8
1.1.7	クラスカル-ウォリス検定 Kruskal Wallis test	1-12
1.1.8	1元配置分散分析の実行手順	1-13
1.2.1	サンプルデータの確認	1-14
1.2.2	オプションの設定	1-16
1.3.1	記述統計の実行	1-19
1.3.2	記述統計の結果の解釈	1-22
1.3.3	正規性の確認	1-26
1.4.1	1元配置分散分析と多重比較の実行	1-28
1.4.2	1元配置分散分析の結果の解釈	1-32
1.4.3	多重比較の結果の解釈	1-35
1.4.4	平均値の差を示すグラフの作成ーエラーバー	1-36
1.5.1	クラスカル-ウォリス検定の実行	1-41
1.5.2	クラスカル-ウォリス検定の結果の解釈	1-44
Chapter 2	2元配置分散分析	2-1
2.1.1	分散分析の概要	2-2
2.1.2	主効果と交互作用	2-3
2.1.3	単純主効果	2-4
2.1.4	2元配置分散分析	2-5
2.1.5	2元配置分散分析の実行手順	2-6
2.2.1	サンプルデータの確認	2-7
2.2.2	オプションの設定	2-9
2.3.1	記述統計の実行	2-11
2.3.2	記述統計の結果の解釈	2-15

2.4.1	2元配置分散分析の実行.....	2-16
2.4.2	2元配置分散分析の結果の解釈.....	2-21
2.4.3	グループの差を示すグラフの作成ー箱ひげ図ー.....	2-26
2.5.1	単純主効果の検定.....	2-30
2.5.2	単純主効果の検定の結果の解釈.....	2-38
Chapter 3 反復測定による1元配置分散分析.....		3-1
3.1.1	分散分析の概要.....	3-2
3.1.2	反復測定データ.....	3-3
3.1.3	要因と水準.....	3-4
3.1.4	被験者内要因 (対応のある要因).....	3-5
3.1.5	球面性の仮定.....	3-6
3.1.6	縦持ちデータと横持ちデータ.....	3-7
3.1.7	反復測定による1元配置分散分析の実行手順.....	3-9
3.2.1	サンプルデータの確認.....	3-10
3.2.2	オプションの設定.....	3-12
3.3.1	記述統計の実行.....	3-15
3.2.2	記述統計の結果の解釈.....	3-18
3.3.3	正規性の確認.....	3-22
3.4.1	反復測定による1元配置分散分析の実行.....	3-24
3.4.2	反復測定による1元配置分散分析の結果の解釈.....	3-32
3.5.1	フリードマン検定の実行.....	3-39
3.5.2	フリードマン検定の結果の解釈.....	3-42
Chapter 4 反復測定による2元配置分散分析.....		4-1
4.1.1	反復測定による2元配置分散分析の概要.....	4-2
4.1.2	主効果と交互作用.....	4-3
4.1.3	単純主効果.....	4-4
4.1.4	球面性の仮定.....	4-5
4.1.5	反復測定による2元配置分散分析の実行手順.....	4-6
4.2.1	サンプルデータの確認.....	4-7
4.2.2	オプションの設定.....	4-9

4.3.1	記述統計の実行.....	4-11
4.3.2	記述統計の結果の解釈.....	4-14
4.4.1	反復測定による2元配置分散分析の実行.....	4-18
4.4.2	反復測定による2元配置分散分析の結果の解釈.....	4-24
4.5.1	単純主効果の検定.....	4-32
4.5.2	単純主効果の検定の結果の解釈.....	4-40

本書では、IBM SPSS Statistics for Windows 24.0Jを使用しています。

オプションとして、Advanced Statisticsを使用しています。

IBM およびSPSSは、International Business Machines Corp.の登録商標です。

本書を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。